―――――――――――――平成 16 年度「大樹通信」4.5 月号巻頭言――――

「心が明るくいきいきと生きられるように」

園長　　高杉　美稚子

春爛漫、4 月がやってまいりました。私の一番大好きな季節です。桜が咲き乱れ、何だか心がワクワクするような、心改まるそんな 4 月です。9 月入学説も出ては消えしていますが、この季節を迎えるとやはり日本の入学式は 4 月でなければと思ってしまうのは私ばかりではないでしょう。少し大人びた進級生、新しい園児たち、保護者の方を迎えて、そして職員と共に歩き始める新年度のスタートです。胸にいっぱい希望があふれてくるような感じがします

今、園児たち、保護者の皆様、先生という素晴らしい吉塚幼稚園の仲間がめぐり合ったことに心から感謝致します。今年はこのメンバーであることの必要性がきっとあるはずです。だから、この仲間であったことに感謝して、自分に謙虚に精一杯生きていきたいと思います。

今年も年度当初にあたり吉塚幼稚園の教育方針について確認したいと思います。
本園の教育の三つの柱は 1、**「教育は真の自立への援助の道」** 2、**「教育は感動と思い出を作ること」**　3、**「教育は知ることの喜びを与えること」**です。
そしてこの教育は

1、共育―自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」、
2、響育―感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
3、驚育―知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。私は、教育は決して「競育」や「狂育」「脅育」であってはならないと考えます。感性に裏付けられた知性こそが本当の知恵であって、ただの知識で終わってはならないのです。美しいものを美しいと思う純粋な心、あるがままの自分を認められる素直な心、自分と同じように他を認められる謙虚な心を大切に出来る人達になってほしいと願っています。

ではどうしたら子ども達に、私たち教師は、親はよい教育ができるのでしょう。
さて、昨年はそのことを言霊で考えてみました。振り返ってみたいと思います。志は高くてもなかなか実行はむずかしいものである事を感じます。

1、ひとつの言葉を大切にしましょう。

この世はすべて、言葉を通した意志疎通がうまくいくか、否かによってお互いの関係がうまくいくか、気まずくなるか決まってきます。たった一つの言葉が子どもの心を閉ざしたり、傷つける凶器にもなり、逆に相手の心を開かせたり、救ったりもします。言葉がどう作用するかは、相手がどう受け取るかですべて決まり

ますコミュニケーションの原則は相手への思いやりです。

「ひとつの言葉でけんかして、　ひとつの言葉で仲直り、
ひとつの言葉におじぎして　ひとつの言葉に泣かされる
ひとつの言葉はそれぞれに　一つの心をもっている」

2、言葉のご馳走をしましょう。何度いっても言い過ぎではありません。

感謝の言葉―ありがとう、ごくろうさま、苦労が吹き飛びます。
相談する言葉―あなたはどう思う？相談されればいやな気はしません
期待の言葉―きっとできるよ。勇気がわいてきます。
激励の言葉―がんばってね。やる気が出ます
信頼の言葉―大丈夫、まかせたよ。元気と自信がわいてくる。
ほめ言葉―よくやったね。積極性が出てきます。

6 つの黄金の言葉、ご飯を毎日食べるように毎日ご馳走しましょう。言葉は使っても減らない大事な宝物です。

3、自分にも、子どもにもプラスの言葉をかけましょう。

暑い、疲れた、苦しい、おもしろくない、つまらない、頭がいたい、気分が悪いという言葉をいつも自分にかけていると、本当にいやな結果がやってきます。よかった、楽しい、うれしいと思うと、結果もそうなります。顕在意識が感じたものが直ちに潜在意識に影響して生活機能も同じようになります。

4、人生を明るくする言葉を人に使いましょう。

言葉には人生を左右する力があります。人を傷つける言葉、勇気をくじく言葉、ヒトを失望させる言葉は前向きな言葉に言い換えましょう。
勇気を与える言葉、喜びを与える言葉に替えると、なんとも言えず人生が明るく豊かになります。それが、自分や周りを積極的集団にします.

5、子ども達の相手のいいところを知らせましょう

人は自分が役に立っていると自ら認識できる時、やる気をかきたてられ、素晴らしい力を発揮します。片付けが上手だね。時間が守れたね。いつも笑顔がいいね。あらゆる機会を捉えて子どもを評価していることを知らせると、それに近づいてくるように努力し成長します。これが、やる気を膨らませる小さなクスリです。

おだててもいけない、偽ってもいけない。でも人は期待に答えて生きていくことを忘れてはいけないのです。言霊で信じあう心をお互いに作っていくことが大切です。

今年は別の視点で考えて見ましょう。それは子供の周りにいる私たち大人が生活を生き生きとさせることです。子ども達がそれをモデリングしていきます。

これから私達大人が子どもに受けさせたい良い教育とは何なのでしょうか？　五感をフルに使い、人間の体の部分をバランスよく使った家庭と子ども、自然環境と子ども、集団の中の子どもと子どもの遊び、体験によって、脳がしなやかにたくましく育っていくのです。どんなに、高価なおもちゃを与えても、親と子ども、教師と子ども、子どもと子どもで交わされる遊びに勝るものはありません。人間の心はモノでは育たないので

す。だから集団が必要なのですね。人間は人の間と書くように人と人との間でしか生きていけない社会的動物です。一生無菌の状態で純粋培養とはいかないのです。

そして、その体験の中でこそ本当の感性が育まれるのです。私達人間は進化の中で遺伝子記憶または生命記憶というものを引き継いでいるのですが、「どこかで嗅いだにおいだな」とか、「思い出」という遺伝子記憶はその人の感性によって引き起こされるといわれています。感性が鈍ければどんなに素晴らしい遺伝子記憶を持っていたとしても宝の持ち腐れなのです。その人の潜在能力を引き出す能力を情緒というのですが、この情緒というものはただ網膜で写ったものだけではなく、心眼（マインド・オブ・アイ）で育つのです。この感性の元は乳幼児期に様々の感覚刺激でしか作られないのです。

感覚刺激の最も才たるものが模倣なのです。「子どもは大人の言うことは聞かないけれど、することは良く真似る」といわれます。大人がやっていることが教育そのものなのです。洋服の着方、顔の洗い方、風呂の入り方、食べ方、言葉使い、身のこなし、全てが教育なのですね．だから「育児は育自なり・子育ては自分育て」といわれるのでしょう。だから、結論として良い教育、子育てとは難しいことではないのですね．子どもが育ってほしいように自分が行動すればいいことなのですから。逆に、とても難しい事かもしれません。しかし、自分が出来ないことを子どもに望むことのほうが子どもにとってはもっと困ったことでしょう。だから、私達は、いつも子どもに見られているという意識を持って生き生きと生活することこそが最もよい教育なのです。結果として出来なくてもやってみようとする姿勢があればいいのではないでしょうか。

具体的な行動としては、毎日以下のようなことを心がけましょう。

① 右脳を活性化させるように心地よいイメージをする、朝起きたら、今日は今自分でこうありたいとする姿をありありと思い浮かべる
② いろいろな事をチェックしたり、人の意見も大事にするけれど、最後は自分で決めてその責任を取るように行動する
③ 常にあれかこれかではなく３つ以上の選択肢をもち柔軟に考える。
④ 過去の経験は生かすけれど過去や未来にとらわれないで、今ここにいて感じる事を一番たいせつにするように務める
⑤頭で考えるより体で感じる事を大切にする。体まで落として感じる
⑥足る事を知り、満足感を持つようにし、何事も感謝の心で素直に受け入れる。
⑦人や自分を非難し、悪いところ駄目な所に目を向けるより、プラスの伸びた所に目を向け、賞賛したり承認するようにプラス思考する
⑧ 出来ないことより出来る事を出来る限りでいいから毎日小さな目標を達成していき、小さな成功体験を積み重ねる。
⑨ 嫌な体験も次のステップに必要な体験であったと思う。
⑩ まずは自分から信じる事を始める
⑪ 失敗はない。繰り返しなりたい自分に向かって持続する。
⑫ 素敵な人がいたら、大人自身もその人をモデリングする。

⑬ いい言葉、きれいな言葉使いを心がける
⑭整理整頓する。身奇麗にする。
⑮ なぜという気持ちを持ち、小さなことにも感動する。花や風、空にも。
⑯ 柔軟体操をする。呼吸を整え、深い呼吸をする。
⑰ 今の自分のあるがままの姿を認め満足感を感じる
⑱ 他人の評価ではなく自分で自分が認められるか、納得するかを軸に決定する。
⑲ 自分の視覚的、聴覚的，蝕運動感覚が心地よい場所に身をおく。
⑳ 家族、職場の人、こどもたち、自然あらゆるものに愛をそそぐ。微笑を絶やさない。

などです。

一人が頑張っても、良い教育は、環境は一人で完成できるものではありません。子ども達がいて、それを支えてくれる家族がいて下さって、真摯な教育をめざす教師がいて初めて一つの教育が完成されます。共に育つことが、まず第一です。子ども達も、自分の力を十分に発揮してくれるでしょう。しかし、最後にこの環境を作っている一員は自分だということも忘れずにいましょう。子ども達の教育の更なる充実は、私たち親、教師一人一人に託されています。自分が良くなくて、自分が向上しなくて、自分が不平不満をもっていて、いい子育てが出来るわけがありません。子ども達にとっていい人的環境になるはずはありません。いい環境にするためには、まず自分からです。一人一人が、いい環境にまずなりましょう。そして皆でいい中身を作りましょう、そして教師も、親も子どもとその中で共に育ちましょう。

最初から立派な人間はいないように最初から、一人前の親も教師もいません。
親として、今の自分は未熟に思えても、その時、その時を精一杯生きて努力をしていれば、その時々ですべての人が「100 点満点」なのです。それは、子ども達も、教師も皆同じです。皆が、自分を認められる、そんな育ちをしてほしいと願っています。だから恐れることは何もありません。行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかないと私は考えます。人が、呼吸をし、生きているということは、何の成長、進歩もない人生を過ごす為ではありません。

そして、最終的に、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張りましょう。そんな幼稚園（成長の場）を共に作りましょう。この実現のために、親も教師も、どうぞ、手を取り合っていきましょう。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学べばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一歩を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます。目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけて子育てを自分育てをしていきましょう。すべては、プラス思考です。

　でも、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、その人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。「Ｓｈｏｕｄ－ねばならない」から「Ｗｉｌｌ－したい」へ心を転換しましょう。

さあ、新しい一年が始まりです。どんな日々を過ごすかは、全て自分しだいです。
子ども達、保護者の方、そして私たちにとっても、思い出に残る一年になりますよう、職員一同力をあわせて頑張ります。
子ども達の為に、思いを、魂を、心を、力を尽くします。いつも子ども達を信じ、子ども達を見守ります。保護者の方の暖かい、励ましとご協力も是非宜しくお願い致します。